

第78回入学式 校長式辞

春の穏やかな陽光（ようこう）に恵まれた本日の佳き日、兵庫県立尼崎北高等学校 **第78回入学式** を挙げていただけますことは、本校にとりましてこの上ない喜びでございます。本校教職員を代表いたしまして、心より御礼申し上げます。

ご来賓の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご臨席を賜り、錦城花を添えていただきましたこと、深く感謝申し上げます。

また、保護者の皆様、ご出席いただき誠にありがとうございます。皆様の温かいまなざしと日々の支えにより、本日という節目の日を迎えられましたことに、心より敬意を表します。

先ほど入学を許可いたしました280名の皆さん、入学おめでとうでございます。今日から皆さんは、尼崎北高校の生徒として、新たな歩みを始めます。

本校は、大正11年に設置された中外商業学校と琴浦女学校を前身に、その後、尼崎市立北高等学校を経て、昭和26年に兵庫県へ移管され、現在の兵庫県立尼崎北高等学校として歩みを重ねてまいりました。「尼北」「北高」の愛称のもと、地域の皆様の温かいご支援を受けながら発展を続け、今年度で105年目を迎えます。そして、これまで先人たちが築いてこられた自主性を重んじる校風と伝統は、今もなお、この学校に息づいています。

これから皆さんの前に広がる高校生活は、新しい出会いと学びに満ちた三年間です。しかし、その道のは決して平坦なものばかりではなく、思うようにいかないことや、立ち止まりたくなるような場面に出会うこともあるでしょう。しかし、その経験こそが、皆さん自身を形づくる大切な時間となります。

さて、本日この門出にあたり、皆様と分かち合いたい言葉があります。

教育者であり、かつてノートルダム清心女子大学の学長を務められた渡辺和子さんの言葉です。

「置かれた場所で咲きなさい」

人は誰しも、自分の望み通りの場所に立てるとは限りません。時には思い描いた道とは異なる場所に立ち、戸惑いや迷いを感じることもあるでしょう。

しかし、そのような中であっても、今、自分が立っている場所で、自分にできることを誠実に積み重ねていくこと、そこにこそ、成長の芽があり、人生の豊かさが育（はぐく）まれていくのではないのでしょうか。

日々の歩みは、決して大きな出来事だけで形づくられるものではありません。

「勉強も最初の一ページから」、「部活動も最初的一步から」、「人間関係も一言の挨拶から」始まります。その一つひとつは小さなことかもしれませんが、その積み重ねこそが、やがて皆さん自身を支える確かな力となっていきます。

そして、もう一つ大切にしてほしいことがあります。それは、人それぞれに歩む速さがあり、進み方があるということです。ある人は力強く前へ進み、また、ある人は一步一步を確かめるように歩みます。

どちらが優れている、ということではありません。それぞれが自分自身の歩幅で進んでいる、そのこと自体に価値があります。

だからこそ、自分の歩みを大切にするとともに、周囲の人の歩みにも目を向け、その違いを認め、尊重する姿勢を忘れないでください。互いを支え合う関係の中でこそ、人は真に成長していくものです。

本校は、生徒・保護者の皆様・教職員がともに歩みを重ねる場でありたいと考えています。日々の中で悩みや迷いに向き合うことがあったとしても、決して一人ではありません。この学びの場が、互いに支え合い、安心して前を向くことのできる場所であり続けるよう努めてまいります。

どうか、今、自分が立っている場所を大切にしてください。そして、その場所で、自分らしい花を咲かせてください。

その花は、決して誰かと比べるものではありません。咲く時期も、大きさも、色も、それぞれでよいのです。大切なのは、自分自身の根をしっかりと張り、与えられた場所で精いっぱい生きること。

三年間という時間の中で、立ち止まることもあるでしょう。迷うこともあるでしょう。しかし、その一步一步は、確かな歩みです。

どうか忘れないでください。あなたにしか歩めない道があり、あなたにしか見ることのできない景色があります。そして、あなたにしか咲かせることのできない花が、この場所にあります。

結びに、新入生の皆さんが、この三年間の中で自らの花を咲かせ、かけがえない歩みを重ねていかれること、また、ご参列の皆様お一人おひとりにとりましても、これからの日々が実り多く、心豊かなものとなりますことを心より祈念し、式辞といたします。

令和8年4月8日
兵庫県立尼崎北高等学校
校長 岡本 勇人